合皮の廃材、おしゃれに再生

共和レザー 生活用品開発

バッグなど女性に訴求

自動車シート用表皮材などを製造する共和レザーは、生産過程で生じる合成皮革の廃材の再利用策として、バッグやペンケースなどの生活用品の開発に注力している。個人消費者向けの製品展開は同社初の試み。女性中心の4人の開発チームが廃材をエコでおしゃれな小物に再生し、女性や若い世代への訴求を目指す。

合成皮革の廃材を活用したバッグなどを手に、今後の戦略を話し合う開発チームメンバー＝12月上旬、浜松市南区の共和レザー

プリズム Economy

昨年秋に都内の服飾ブランド銀座マギーと連携し、廃材を活用したオリジナルバッグを同ブランド店舗で販売した経験を機に、アイデアが次々と生まれた。浜松の街や人を描いたイラスト付きのペンケースや小銭入れを製作し、来社者や取引先に試供品として配布したところ、好評を集めた。

資料用バッグやパソコン収納ケース、粒状の廃材を使ったクッションも試作し、ペンケースなどと合わせて販路を開拓中。銀座マギーとの事業は今年も継続し、同ブランドの浜松メイワン店（浜松市中区）などで新作ポーチを市販している。

同社は自動車内装用合成皮革製造で国内シェアトップだが、消費者の認知度は高くない。チームリーダーを務める同社デザイン部長の中村美由紀さん(50)は「デザインの力で、軽くて丈夫で汚れにくい自社の合成皮革の良さを多くの人に伝え、環境保護の理念も広めたい」と意気込む。車両営業部の山本由樹さん(25)も「新しい事業に関わってやりがいを感じる。SNSを使うなど若い人への発信策も考えたい」と意欲を示す。

（浜松総局・高松勝）

静岡新聞

© 静岡新聞社　無断複製転載を禁じます